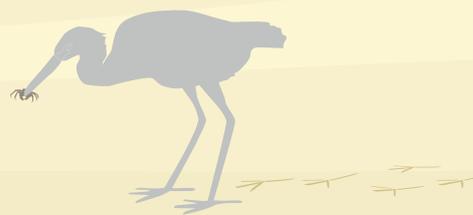


なぎさ NEWS



台風後の「西なぎさ」、その影響は・・・

水族園では2ヶ月に1度、葛西海浜公園「西なぎさ」で地曳網調査を行っています。10月28日の調査は、月の前半に関東へ上陸した台風の影響を色濃く感じさせる結果となりました。海水は近くを流れる河川から流入した水のせいか、コーヒー牛乳のように茶色く濁っており、波打ち際には木の葉や枝など、河川からのものと思われる漂着物が目立っていました。

曳いた網の中には、例年10月に見られるサツパのほか、淡水性魚類のウグイとカダヤシの姿が合わせて6尾見られました。過去の調査記録を紐解くと、これまでも台風通過後の地曳網調査で、ハクレンなどの淡水性魚類が入網した記録がありました。ウグイは海まで降りる降海型が知られていますが、これまでの調査での出現頻度は低く、「西なぎさ」周辺に定着しているとは考えにくいいため、台風による大雨や風によって河川から「西なぎさ」まで流されてきたと考えられます。過去のデータから、このようなことがわかるのも、継続的な調査の積み重ねの結果です。

(調査係 小川 悠介)



台風一過の「西なぎさ」。見渡す限り茶色く濁っている

杭にたくさんの穴を開けたのは誰？

「西なぎさ」の沖には木製の杭が並んでいる場所があります。大潮の干潮時には、そこまで歩いていくことができるので、杭に付着するフジツボ類などのさまざまな生き物を観察するチャンスです。この杭の根元の方に注目すると、穴が無数に開いていることがあります。穴の中をよく見てみると小さな生き物がすっぽり入っています。この生き物はヨツバコツブムシという等脚類です。陸上のダンゴムシや表紙で紹介したジャイアントアイソポッドに近いなかまで形態もよく似ています。潮が満ちて杭が海中に沈むと、大顎をつかって丸い穴を掘り、そこをすみかとしています。また、腹肢を使って水流を起こし、穴に流れ込んでくる微小なプランクトンなどを食べてくらしています。そして潮が引くと、次に潮が満ちてくるまで、穴の奥へ頭を隠してじっとしています。

潮が満ちるたびに海中の木材を掘り進んでしまうため、害虫扱われることもありますが、頭隠して尻隠さずの姿はとても可愛らしいと個人的には思います。ぜひ、皆さんも干潮時の「西なぎさ」に出かけて、杭の穴にいるヨツバコツブムシを探してみてください。

(教育普及係 田中 隼人)



「西なぎさ」の杭で見られたヨツバコツブムシ

なぎさ 生き物ミニ情報

水族園では葛西海浜公園の「西なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、10月に行った地曳網調査と11月に行った生き物調査の結果をまとめて報告します。

10月地曳網調査: 水温21.0℃、気温22.0℃、塩分濃度1.6%。台風直後の調査となり、河川から流入した水の影響か、通常よりも海水が濁っていました。毎年秋に見られるサツパや冬に見られるシラタエビが多く採集され、海の中の季節の移り変わりが感じられました。

11月生き物調査: 水温22.0℃、気温18.7℃。海の中も秋の気配が色濃くなりました。生き物はまだまだ活動していて、砂の上ではたくさんのコメツギガニが砂団子をつくっている様子を観察することができました。潮だまりではアシシロハゼが多く見られました。